

住宅政策の基本目標（案）

令和 7 年10月10日

選ばれるまち大阪、次代につなぐ人と住まい
～多様な幸せを実感できる、住み続けたい住まい・まちをめざして～

- ・大阪市全体のめざす方向性として、「大阪市未来都市創生総合戦略」において、『一人ひとりが多様な幸せ(Well-being)を実感でき、誰もが安心していつまでも住み続けたいと思う「にぎやかで活気あふれるまち大阪」の実現をめざす』ことが示されている。
- ・住まいは、幸せな市民生活の基礎であり、まちを構成する主要な要素でもある。また、住まいのあり方は、市民生活の質の向上はもとより、まちの活力、防災、環境、地域コミュニティ等と密接な関係にある。
- ・こうした基本認識のもと、住まい・まちづくりを通じて、一人ひとりが多様な幸せ(Well-being)を実感でき、誰もが安心していつまでも住み続けたいと思う住まい・まちを、市民や事業者をはじめとする多様な主体とともに実現することが、住宅政策の使命である。

住宅政策の基本目標（案）

- ・近年の大阪市の住宅政策を取り巻く状況をみると、人口減少社会の到来、住宅価格の高騰、気候変動や災害の激甚化、ライフスタイルや価値観の多様化といった大きな変化に直面している。
- ・このような状況のなか、大阪市が将来にわたって持続可能な都市として発展していくためには、いま暮らしている市民にとって、またこれから居住地を選択する人々にとって、住みたい、住み続けたいと思える住まい・まちの形成が必要であり、人口減少社会においても、大阪市が住むまちとして選ばれる、価値ある都市であり続けることが重要である。
- ・住みたい、住み続けたいと思える住まい・まちを実現するためには、多様な人々の暮らしを支える住まいが安定的に確保され、地域福祉とも連動した誰もが安心して暮らせる居住環境を整えなければならない。またそれは、大規模な災害時においても、そこに住む市民の生活・生命が脅かされることのない安全なものでなければならない。

住宅政策の基本目標（案）

- ・さらには、これまでの長い都市居住の歴史の中で形成されてきた住まいやまちなみ、そこで育まれてきた居住文化、大阪に暮らす人々の温かさやコミュニティなど、ハード・ソフト両面にわたる大阪らしい魅力を様々な主体とともに醸成し、これらを確実に次の世代へと継承していくことが大切である。
- ・住む人にとって、「安心」で「安全」な住まい・まちであるから選ばれる。住むまちとして、多彩な「魅力」があるから選ばれる。そして、まちを構成する人と住まいを次代に「継承」することで、大阪市は選ばれるまちであり続けることができる。
- ・これらを踏まえ、大阪市の今後の住宅政策は、
「選ばれるまち大阪、次代につなぐ人と住まい」を基本目標として、
市民一人ひとりが多様な幸せを実感できる住まい・まち、住み続けたいと思える住まい・まちをめざして積極的に取り組んでいくべきである。